

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校
定時制・通信制課程

第10号 2021. 2. 26 (金)

< 人権・同和教育LHR >

同じテーマで、定時制昼間部4年生は1月20日(水)、夜間部は1月29日(金)、昼間部2年生は2月25日(木)に人権・同和教育LHRを実施しました。内容等について簡単に紹介します。



「在住外国人・外国につながる子どもの理解」

- なじみのない外国語の文章の中から指定された単語を探し出す
 - ・どんな気持ちになったか振り返る
 - ・日本語を日常的に使用しない人が日本語の文章を見た時どう感じるか想像する
- 島根県在住の外国人住民人口について
 - ・多い国籍やその国の主要言語を確認する
 - ・外国人住民が多い市町村を確認する
- 世界の様々な文化や風習を知る
- 資料(在住外国人や外国につながる子どもなどの作文や聞き取りの文章)を読む
 - ・どのような思いで過ごしているか、どのようなことに困っているか、周囲ができることはないか、考える

授業を受けたみなさんが書いてくれた感想から、いくつか紹介します。

昼間部4年生

- ・外国人の人たちもいろいろ悩んでいることに気づきました。私のアルバイト先にもフィリピン人の人がいるので、困っているところを見かけたら助けてあげようと思いました。
- ・知らないから、わからないからと、相手とのコミュニケーションをやめてはいけないと感じました。お話を聞いている時、私は自分が言語も文化も少ししかわからない国に住んだら、と想像してみました。ところどころしか聞き取れない言葉に読めない文章。怖い、心細い、と思いました。それと同時に、もし一言でも日本語が聞けたらと思いました。私の周りには外国人はおらず、今日のこの機会がなければ、知らない、わからないからと、一人で心細いと思っている外国人のことを見て見ぬふりをしていたかもしれない。ですが、この時間で相手の立場を想像することができました。どこかで外国人と知り合う時があれば、その人の国のことを調べて知って、その人の故郷の言葉で「おはよう」や「こんにちは」と一言声をかけてコミュニケーションをとってみようと思います。

夜間部

- ・言葉は通じないけど、分かりやすく丁寧に接したいと思いました。

昼間部2年生

- ・いろんな方々のお話を聞いて心がグッとしました。自分が海外へ行って生活をするってなると絶対大変だし困ることが多いと思うから、もし身近にそういう人がいたらサポートしてあげたいです。
- ・日本語が分からない、日本の「たてまえ」や作法が分からない、でも自分から助けを求められない、ということを知りました。ぱっと見大丈夫だと思っても、その人が実はピンチだった、なんていうのはどの国の人にもあることなのだと分かりました。「この人がそうだからその国の人みんなそうなのだ」というのは偏見であり差別なのだと私は感じました。
- ・自分は日本で生まれたから言葉はあまり苦労しなかったけど、日本で生まれたのに、小学校の友達とかに母親が外国人だから自分も外国人だと言われた時のことが一番ショックだったなと思いました。でも、自分が言われて嫌だったのに、母親とケンカした時に「外国人だから」「あんたのせいだ」など言うことがあるので、それを直していきたい。

(裏へ続く)

15年くらい前の勤務校で、入試の時にカタカナの名前の生徒がいて、同僚と「保護者さんが外国の人かな。日本語大丈夫かな。」と会話をした記憶があります。その生徒は、お父さんが日本・お母さんがフィリピンの方でした。次の勤務校では、ご両親が中国の方で日本語が難しいため、「親が病院へ行く時に通訳のために欠席する」という生徒がいました。その生徒たちは日本で生まれ育っており、日本語指導を必要としていませんでした。その生徒たちの担任でなかった私は、保護者の方と関わる機会もなく、外国につながるのがある生徒が勤務校に在籍しているという認識はありながらも、全く課題意識を持っていませんでした。

その後、フィリピンから移住し日本で結婚・出産・子育てをしている女性たちのお話を聞かせていただく機会がありました。日本語がわからないために学校からのおたよりが読めず苦勞し、困っていること。子どもに勉強を教えたいのに教えられなくてもどかしいこと。涙ながらに話される女性たちの思いをお聴きしながら、子どもが日本語の読み書きができるから大丈夫ということではない、自分の認識が間違っていた、とわかりました。家庭ではどの言語でどれくらいコミュニケーションがとれているのか、どのような不安や困り感を持っているのか、どれくらいの負担感があるのか、そのようなことは私は知ろうともしていませんでした。また、自分(学校)に何ができるのか、考えてもいませんでした。今まで関わってきた外国につながるのがある生徒たちに対して、本当に申し訳ない気持ちになりました。

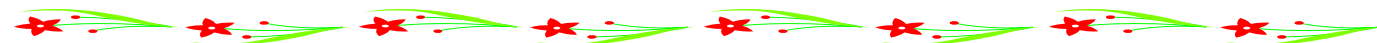
本校で実施している生徒のみなさん対象の人権意識調査において、「人権課題の中で、あなたが学習したい内容について、すべて選んでください」という問があります。今年度回答数が多くあがったのは「障がいのある人」に続いて「外国人」でした。島根県内でも外国人住民人口が増えている現実があります。生徒の皆さんに「出会ってほしい」と思い、過去の自分の課題意識のなさに対する反省もあり、授業を実施しました。

その時その場になってみなければわからないことはたくさんあります。でも、事前に「出会う」ことによって、正しく理解し、想像力をはたらかせ、様々な立場にある人たちの課題を自分自身の問題として捉えることができたり、あらゆる人が生きやすい「ともに生きる社会」の実現に向けて行動できたりするようになると思います。

昼間部4年生では、人権・同和教育の授業のまとめの話をさせてもらいました。

- ・差別や人権侵害が起こっている社会に生きている以上、「自分には関係ない」はあり得ない。
- ・差別は見ようとしなければ見えない。
- ・差別や不合理なことに気づく力(人権感覚)をつけるために、さまざまな人と出会い、関わり、話し、聴き、感じ、考える。
- ・差別に気づく → 差別をしない → 差別を許さない → 差別解消のために行動する(=目標)
そのために…
自分の意見を表現する(嫌なことは嫌と言う、間違っていると思ったら「おかしい」と言う)
人を巻き込む(人との関わりを作る、何かあったら話す・相談する・意見を求める)
- ・おねがい
卒業後、困った時は悩んだ時、絶対に一人で抱え込まない
差別に出会った時やどうしたらよいかわからない時、近くの人に相談する、学校に電話する、学校に来る

卒業生の皆さんが、全ての人自分らしくありのままに生きられる社会の実現のために、よりよく生きる選択ができる社会人になってくれると期待しています。
(生徒部 人権・同和教育担当：岡崎)



< なりたい自分になる ~ 人として正しい生き方 を模索していこう ~ >



「人権(じんけん)」は今ではあるのが当たり前、認められて当然という風に考えている人も多いと思いますが、歴史を見れば明らかのように、人々が闘い血を流した末に獲得してきた経緯があります。そして、時代とともに人権保障は拡大・充実してきましたが、逆に様々な人権問題や人権侵害も発生しています。その「人権」は「Human Rights」の訳語です。「Right」の本来の意味は「正しい」という意味なので、「人権」=「Human Rights」とは「人間として正しいこと」という意味になります。人の陰口を言ったり、差別したりするような生き方をするのか… ネットで匿名の誹謗中傷の書き込みをするのか… それとも、自分も周囲の人も大切に、正しい生き方を求めて生きるのか… 手元のスマホやパソコンで全てが完結してしまい、AI等の技術革新もさらに進化する時代です。だからこそ、目の前にいる生身の人間「ひとりひとりを大切に」していく重要性が増しています。皆さんの「なりたい自分」は人として正しい生き方を模索する自分であってほしいと願います。
(生徒部 人権・同和教育推進委員：春木)